

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072100551		
法人名	ハートフルケア たてしな		
事業所名	グループホーム だんらん		
所在地	長野県北佐久郡立科町大字芦田3723番地		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然に恵まれた環境のもと、ご家族や地域の皆様と関わりを持ちながら、その人らしい生活を送っていただいています。 ・居室は全室個室で畳を使用しており、時間に縛られることなくゆっくりと過ごしていただいています。 ・季節に合わせた催しものや地域の行事に積極的に参加し、また隣接する介護老人福祉施設やデイサービスセンターの皆さんとも交流を図りながら、社会との関係を大切にしています。 ・その様子を写真にし掲示することにより、楽しかった思い出を大切にしています。 ・利用者の方全員に、生き生きとした表情を見せていただけるよう、コミュニケーションやスキンシップを欠かさないう支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームだんらんは、利用者のこれまでの暮らしの中で馴染んできた瓦葺きの日本家屋であり、周囲に花壇・野菜畑を配し、玄関横で犬を飼い、玄関前は外の行事の出来る広さを持っており、各種の機能を備えた「だんらん」を目指した大きな家庭である。食堂・談話室・台所・廊下と一体のフロアとなり、ゆったりと居心地よく過ごせ、各居室が一望に見渡せる空間となっている。認知症になることを恐れ、不安を抱く人々に、認知症になっても「やすらぎと尊厳のある生活が送れる」ことを実証し、「心穏やかな暮らし」を利用者に提供している。隣接する特養などの事業所の有機的活用、ふれあい講座の地域への発信やわくわく教室の子供たちとの交流、馴染みの関係を継続するための「ふるさと訪問」、歯科医協力による口腔ケアへの取り組み、心まで温めるペレットストーブの活用など利用者が「あせらず、ゆっくり」と暮らしていける生活環境を作り出そうと努めている。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072100551&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年11月17日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流を深めることを理念にうたっている。 ・理念に基づいたサービス提供に心掛けるよう、ミーティングや申し送り時に職員間で確認しあっている。 	<p>地域との関係性と、認知症になっても「やすらぎと尊厳のある生活」が送れるよう支援することを盛り込んだ事業所独自の理念となっており、何時でも見れるよう玄関・廊下等に掲げてあった。ミーティング等で確認し合いながら、職員への共有化を図り、実践に繋げるよう取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の行事に参加していただいたり、散歩や買い物のときに声を掛け合ったりしている。 ・児童館の小学生が定期的に訪問してくれたり、町主催の敬老会等にも参加し交流を図っている。 ・町の広報や有線放送等で地域の情報を得ている。 	<p>事業所周辺は公共施設が多く、近隣の住宅は3軒のみであり日常的なつきあいは困難が多いが、町主催の敬老会や文化祭に参加したり、保育園児や児童館の小学生と交流したりして、地域とのつきあいを大切にしている。高校生の校外活動や短大の実習生の受け入れ、地域行事への参加、事業所行事への招待など地域と共に暮らしていこうと努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所においてヘルパー2級養成講座を開催したり、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。 ・ふれあい講座を通じて事業所の紹介を行い理解を深めていただいている。 ・人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。 	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの現状を説明し、それぞれの意見を聞いている。 ・運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告しあい、一つひとつ積み上げていくようにしている。 	<p>2か月に1度、開催することを目標にし、事業所の現状を透明性を持って報告し、委員から意見や疑問を頂き、運営への理解を深めている。会議内容は職員会議等で取り上げ、検討すると共に、家族会を活用してご家族に報告されている。</p>	<p>地域の協力を得て、事業を運営することも多いので、構成委員に地域を動かすことのできる地域代表や地域の福祉を担う民生委員などを加えることが望ましい。又、会議は、委員のご苦勞も多くなり、議題で苦慮することもあるが、引き続き、2か月に1度は開催されることを期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政法人なので町との連絡は密に行っている。 	<p>行政法人であるので、協力関係は十分に築かれている。運営推進会議に町職員、包括支援センターの出席があり、現状もよく理解されている。</p>	

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を行うなど事業所全体で取り組んでいる。 ・正面玄関の施錠はしませんが、防犯上の敷地境界でのセンサーを設置している。 	<p>身体拘束をしないケアについての職員の共有認識は「身体拘束ゼロの手引き」をテキストに研修し、抑圧感のない暮らしの支援が来ている。事業所近くに池があったり、事業所前の道路が傾斜しているなど、玄関を施錠しないことによるリスク軽減も考慮して、敷地境界でのセンサーを設置している。</p>	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を行うなど事業所全体で取り組んでいる。 		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を行うなど事業所全体で取り組んでいる。 		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約前にホームの様子を見て状況を確認していただいた後、文書と口頭にて丁寧に説明している。 ・契約解除に至る場合は、理由を明確に説明している。 		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。 ・面会時等の会話の中から、家族の意見や要望を収集して運営に反映させている。 ・家族会等で常に問いかけ、何でも言いやすい雰囲気づくりに留意している。 ・意見箱を設置している。 ・第三者委員会を設置している。 	<p>利用者(言葉や態度から察する)やご家族(面会時・家族会)から意見や思いを聞くよう取り組んでいる。少なくとも月1回は訪れる面会時に事業所での様子を口頭で伝えたり、壁に行事の写真を貼ったり、たよりも月1回発行し、事業所での利用者の生活ぶりを心配しているご家族の気持ちに応えようと努めている。意見箱や第三者委員会を設置して利用者やご家族が自らの思いを自由に言える機会も作っている。</p>	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に運営委員会を設置しており、職員の意見や提案を聞いている。 ・だんらん会議では職員一人ひとりから意見を聞き運営に反映されている。 	<p>月1回の職員会議、年1回の個別面談会の折に職員の意見や思いを聞く機会を設けている。管理者、職員同士、共にコミュニケーションが良く取れていて、正規・臨時職員という立場の違いを越えて職場外での交流(忘年会など)にも力を入れている。会議での研修報告などによる全職員への認識の共有化を図り、職員1人ひとりのやりがいや向上心を引き出している。</p>	

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事評価を導入しており、職員が目標を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・学習会や研修等には積極的に参加している。また、それらの研修報告は毎月の職員会議の際に発表し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・広域や連絡協議会等で交流を持ち、勉強会や相互訪問等に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・必ず本人に合って心身の状態や思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人とは別に話をする機会を設け、ご家族の求めているものを理解することにより、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人にとって必要な支援を最優先し、他のサービス利用も考え柔軟に対応できるようにしている。		

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の出来ることを把握し一緒に行ったり、生活の知恵を教わったりしながら馴染みの関係作りに留意している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時や必要に応じて電話等で利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、本人を支えていくための協力関係が築けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族には出来るだけ関わっていただけるよう配慮している。 ・利用者の希望に沿って「ふるさと訪問」を計画し、家族や友人等にも協力していただいている。 ・馴染みの美容院等に通えるよう支援している。	年1回行われる「ふるさと訪問」、電話や手紙(年賀状など)の支援、馴染みの美容院へ行くなどは、利用者のこれまでの暮らしの継続性や地域との関わりを大切にしていきたいことを主眼にしており、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係性について情報連携し、職員が調整役になり穏やかな生活が送れるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・事業者間で情報を交換したり、家族からの相談にのったりしている。 ・いつでも立ち寄りいただける雰囲気作りをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。 ・家族等からも情報をいただくようにしている。	基本情報から利用者の思いや得意分野を把握し、日々の関わりの中やご家族からの情報を加えて、「今」の利用者の思いを理解するよう取り組んでいる。	

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用時に自宅に訪問したり、本人や家族からの情報を得ながら日々の生活に活かしている。 ・利用後も折に触れ、本人や家族からこれまでの生活について聴いている。 ・他事業者からも情報を得る。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の生活のリズムを崩さないよう配慮し、有する能力を発揮できるよう心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人・家族からの意向や要望を確認し介護計画を作成している。 ・アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを定期的に行っている。 ・状態の変化時はその都度内容の見直しを行っている。	利用者やご家族の思いや要望を把握して課題分析し、カンファレンスを通じて、計画作成担当者が介護計画を作成している。月1回のモニタリング、設定期間毎のモニタリング・評価・見直し、心身の状況変化に応じた見直しも行われている。利用者の担当制があり、担当者はカンファレンスや記録を通じて、介護計画に対して提案できる機会があり、計画作成担当者と職員で作り出す現状に即した介護計画となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々に気づいたことは毎日個別ケースに記録し、常に目を通して情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人・家族の状況により、通院・外出等の支援は柔軟に行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事に参加したり、ボランティア等の受け入れを積極的に行っている。		

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の希望するかかりつけ医に定期的に往診していただいている。 ・必要により家族の付き添いにより受診している。 ・緊急時には職員も付き添い状態を伝えるようにしている。	利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっており、往診をしてくれるかかりつけ医もある。受診の付き添いはご家族が行うが、緊急の受診等は職員が代行することもある。歯科医による口腔ケアの実施や指導も受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同事業所内の看護職員に相談・助言を受けたり、かかりつけ医の看護師とも気軽に相談できる関係が出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院先の医療機関と話し合いの機会を持ち、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時や家族会等で説明している。 ・家族とその都度話し合い、主治医と相談しながら支援していく。	身体の重度化や終末期への対応は、基本的には行わず、他の事業所や病院へ移行する方向でご家族等の理解を得ている。移行へのバックアップ体制は充分あり、都度の話し合いも行われ、ご家族の不安を取り除いている。ケアが困難である認知症利用者へのケア専門事業所として地域に貢献する姿勢も大切であると感じられた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事業所全体で救急法等の研修を行い、いざという時のために備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回防災訓練を行っており、地域の皆さんにも参加していただき協力を得ている。 ・災害対策マニュアルを作成しており、それに添って行動できるよう日頃から訓練している。 ・スプリンクラーを設置している。	災害対策マニュアルの作成と理解・自動通報装置やスプリンクラーの設置・年2回の防災訓練(全職員参加、地域住民や消防署の協力)と災害への備えは充分に出来ている。	何時災害が発生しても対応出来る力量を付けるためには、頻度よく訓練を重ねることである。年2回の訓練以外に、月1回行われる会議の折を活用して、通報・避難誘導手順を主としたイメージトレーニングを実施することを期待したい。

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーに配慮し、さりげない対応を心がけている。 ・研修会等に参加し、意識向上を図っている。	利用者個人の書類は鍵の掛かる事務室に保管し、「個人情報取り扱いマニュアル」の研修会も全員参加で行い、プライバシー配慮への意識の向上に努めている。気付かずに、何気なくしてしまうことのある誇りや尊厳に配慮を欠いた言動には職員同士で注意し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者に合わせた声掛けを行い、些細なことでも本人が決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの気持ちを大切に、できるだけ個性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・行きつけの美容院に行ったり出張してもらい、希望に添ったスタイルにしている。 ・特に外出時は一緒に洋服を選び、おしゃれして出掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・お茶入れ・食事の下ごしらえ・テーブル拭き・片付け等声掛けしながらできる範囲でお願いしている。 ・職員も同じテーブルで楽しく食事できるように雰囲気作りを大切にしている。	利用者は出来る範囲で調理の下準備から片付けまで職員と一緒にしている。畑で採れた物を活用したり、季節を感じたり、これまで馴染んできたおやつを作ったりして食への楽しみを広げながら職員と一緒にテーブルを囲んでいる。献立はグループホームの職員が作成し、隣接している事業所の栄養士から栄養摂取状態等の指導を受けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの嗜好物を理解しており、味付けや盛り付け等工夫している。 ・食事・水分摂取量を把握し記録している。		

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後歯磨きや入れ歯の洗浄など、個々の状態に合わせて支援している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・毎日の排せつの様子を記録し、個々の排せつのサイクルを把握しながら、トイレでの排せつを促している。	トイレを利用しての排泄を介護の基本とし、日々の排泄記録から排泄パターンを把握して、トイレ誘導や声掛けをしている。リハビリパンツやパットを活用し、排泄の不安解消や失敗した時に本人が傷つかない配慮もしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分や食物繊維の多い食べ物を摂取したり、散歩等行い適度な運動を心がけている。 ・排便表をもとに漢方茶を飲んだり、医師や家族と相談し服薬等の対策を取っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴日は一応決めてあるが、拒否や失禁等があればその都度対応している。	利用者の希望に応じて作成した入浴表があり、1人週2～3回、1日3～4人が午後入浴している。ゆず湯などの季節感のある楽しみも取り入れている。ユニットバスで、明るく清潔感があり、手すり等の安全面での配慮も施され、ゆっくり、安心して利用できる浴室となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。 ・それぞれの落ち着いた場所で、安心して過ごせるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方される度に用法や用量を確認し、薬の説明書に職員全員が目を通している。		

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの得意分野で力を発揮していただけよう仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日には戸外に出掛け、季節感を味わっていただいている。 ・定期的に全員で遠出し外食を楽しんだりしている。 ・家族と協力し、個々に外出支援を行っている。	事業所周辺の散策、食材の買い出しなど日常的な外出をすると共に、花見・紅葉狩り・温泉などへの外食を含んだ遠出もしている。家族協力による外出支援もあり、気分転換や五感の刺激を得るための戸外に出掛ける機会を多くするよう取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お小遣いとして家族より預かり、職員が管理している。 ・外出時には本人の希望により少額を渡し、その中で買い物を楽しんでいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を掛けたい希望があるときには応じ、年賀状や暑中見舞い等を書いて投函するよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールには温かみを感じるペレットストーブを設置しており、冬場はその周りで暖を取っている。 ・日中は畳スペースにほとんどの皆さんが集まり、テレビを見たり会話を楽しんでいる。	食堂・談話室・台所は一体のフロアとなり、廊下も含めて十分な広さがあり、採光も良い。畳の間は寛ぎ空間として利用されている。ペレットストーブは炎が見えて、温かさと共に懐かしさと安堵感を醸し出している。天窓からの採光も良く、壁には利用者の書道の作品や行事の写真が貼られ、話題の提供をしている。各種の季節に応じた催し物や食事を提供して、季節と共に暮らしてきた利用者に生活の匂いを感じてもらえるよう取り組んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・それぞれ食堂の椅子や周りにあるソファに自由に座って過ごせるようにしている。		

外部評価結果(GHだんらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族の意向で、慣れ親しんだ小物や寝具を持ち込んだり、行事や家族と撮った写真を飾り、温かみのある居室づくりを心がけている。	全室和室(畳・板の間・サッシと障子の窓)となっているが、ベッド利用が主体である。物入れ棚が設置されているので、衣類などは、その中に良く整理されており、見える場所には写真や小物が飾られていた。普通の家庭の当たり前の部屋であり、掃き出し窓からは、池や田畑、遠くに小学校が眺められ、これまで馴染んできた暮らしの風景が違和感なく展開していた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下・トイレ浴室等に手すりをつけ、安全に行動できるよう配慮している。 ・トイレを表示したり居室の入り口に名前を貼ったりして混乱しないよう配慮している。		